

ねじりはちまき

12月 大雪、冬至の月となりました。

12月7日 大雪です。8日 針供養。21日 冬至です。23日 天皇誕生日です。25日 クリスマス。28日 ご用納。31日 大晦日となりますね。

月日の経つのが早いもので、去年の暮に書いたこのねじりはちまきが、1年前だとは思われない思いです。有限会社幸田建設も、皆様のお引立に依って設立されました。お陰様を持ちまして、30年を過ぎようとしています。

設立以来も皆様の有難いご指導と、ご鞭撻を頂きまして誠に有難く感謝を申し上げますと共に、今後も宜しくお願い申し上げます。

今年は申年(去る年)、来年は酉年(取り年)ですね。
どうぞ良い年を迎えるために、家内安全と交通安全を良く守り、良い年を迎えられます事を心からお祈り申し上げます。

幸田 常一

* * * * *



本宮市の現場で、住宅新築工事をお世話になってます。
広い敷地内に住宅と作業場を建設させていただく事になりました。

身辺雑感 55

「セイボ」

今年も余す所僅かになり、いよいよ歳暮の季節となって参りました。毎年この時季になると、今年も自動車を運転して会津まで行く事が出来るのかと心配になり、不安を感じていました。加齢に伴いマイカーを運転して長距離の移動に自信を無くしていたからです。しかし、今年はその不安も一挙に解消いたしました。

それを云うのも、転勤で全国を異動していた次男が15年ぶりに、地元へ転勤になり、K市の自宅から通勤できるようになりました。このため、毎週のように私の家に泊まりに来ては、晩酌の相手をしてくれるようになり(家内には大変な苦勞をさせる)、その席で、11月の末日に私と家内の実家に歳暮に行く予定だが自動車を運転してくれないかとお願いをしたところ、快く運転を引き受けてくれたからです。

さて歳暮の当日、予め準備していた物を自動車の積み込み、次男の運転する自動車で予定通り自宅を出発、K市の私の実家へ。実家では農業を営んでおりますが秋の収穫も終わり、一息のつける状態。

甥の(跡取り)嫁さんとその子供がのんびりと留守番をしていた。既に両親は他界、ほとんど耳が聞こえなくなった私の兄が歳の割には元気で、家族に迷惑を掛けながら生活をしていた。仏壇で焼香して、家族全員が元気で生活して居る事を報告。

次いで、W市に住む義姉宅へ。今年も、私共が丹精込めて育てた秋野菜を(70%自慢の心持ち)で届ける。お世辞半分にしてもお褒めの言葉を頂き大満足。義姉宅からは私の大好物のお土産を有難く頂き、家内の実家に向かう。

V町の家内の実家では、家内が事前に連絡をしていたらしく、テーブルに乗り切れぬ程のご馳走を作り、私共の到着を心待ちにしておられた。

家内の実家でも両親と兄が他界して、兄の夫人と長男夫婦、更にその子供夫婦と長男の大家族である。御歳暮の品々を仏壇に供え焼香、お陰様で家族全員が元気に暮らして居る事を報告の後、昼食会。家内の実家の味は今も大事に守られている。真心こめて作られた料理を存分に頂きながら、感謝の気持ちを満身で感じる。

さらに今年も、家内の小学校時代の同級生がV町でりんご園を経営しているAさん宅へ。自動車2台で訪問してりんごを分けて頂く。此処でも素晴らしい歓待を受けて大変有難く思う。自動車一杯にリンゴを積み込み、殿様気分にな

り、夕闇迫る頃自宅に帰りつく。

この様にして、今年も無事に両親が他界した私共の実家に歳暮に行くことが出来ました。また、訪問の先々で大歓迎を受けて大変有難く思うと共に、来年もこの様にして歳暮に歩く事が出来たら、有難く幸せであると考えた次第です。

K・S 記

* * * * *

今月の旬♥食材

「春菊」

春菊は名前の通り、キク科に属します。

鍋料理には欠かせないお野菜ですね。

独特の香りとクセのある味に、ちょっと苦手…という人もいます。

鍋に入れるほか、ゴマ和えや白和え、天ぷら、炒めものにもいいですね。

二つたまのように春菊で作ってもおいしいです。

春菊はベータカロチンや、ビタミンB、C、鉄分、カルシウム、食物繊維など栄養素を豊富に含んでいます。

特に、ベータカロチンは、ほうれん草や小松菜よりも多く含まれています。

風邪をひかないように、春菊料理はいかがでしょう。

* * * * *

風邪のひき始めに、

温かい飲み物はいかが？

寒いこの時期、鍋料理がおいしいですね。

部屋の中も暖まるし、たくさんのお野菜や魚介類、お肉も入って、栄養満点です。

お鍋のあとは、休む前に温かい飲み物などいかがでしょう。

生姜紅茶、ねぎ生姜湯、(ねぎはみじん切り、生姜はすりおろして少量のみそを入れ、熱い湯を注ぎます。)葛湯、卵酒、赤ワインはホットワインにするといいですね。飲んでホカホカしているうちに、お布団に入ってゆっくりと体を休めて下さい。

昆虫はすごいという話

「昆虫はすごい」という本を入手した。読んでみるととても面白い。教えられることも多い。この本には続編もある。「昆虫はもっとすごい」という書名だ。「昆虫はすごい」の著者は丸山宗利氏で、農学博士で九州大学総合研究博物館助教の職にあり、アリやシロアリと共生する昆虫の多様性解明が専門で、アジアではその第一人者だという人である。昆虫の研究者である丸山氏は本の冒頭でこういうのである。「虫けらと見下される昆虫でも、実は個々の能力に関しては、ヒトと同等、あるいはより優れているものが無数にある。一番驚くのは、ヒトが文化的行動として行っていることや、文明によって生じた主要なことは、昆虫が先にやっているという事実であろう」。こういうことについて、本書では紹介したいというのだ。今回は丸山氏の研究の「すごい」という一部を覗いて見たいと思う。

まず、「巧みな暮らし」という視点で昆虫世界をみる。その①は「収穫する」である。昆虫の食のことだが、食はほとんど植物に依存する。昆虫と植物の関係には相互に依存する関係（受粉や蜜での）があるが、一方野生の植物は、昆虫に食べられるだけでなく、昆虫に対抗する防御物質（毒性）を有するのだ。その防御物質の使い方だが、昆虫が食べた部分に植物が防御物質を送り込むという方法だ。それに対する昆虫の摂食方法としては、防御物質を流し込む葉の管を切断するというやり方である。こうして昆虫は安心して食べられるわけだ。農作物の多くは改良によって防御物質が少なくなっているということである。その②は「狩る」である。捕食性の昆虫には、捕まえた獲物をすぐに食べるものが多いが、独自の保存方法を編み出しているものもある。例えば狩りバチは毒針を使った麻酔により獲物を仮死状態にして保存し、自分の幼虫に日持ちする餌を与えることに成功している。また、昆虫の中には恐ろしく素早いものがある。外敵を感知して反応する速度が人間の約10倍というものもあるのだ。その素早さが狩りをする場合にも発揮される。熱帯のアギトアリは獲物を見つけると全開の大顎が時速230kmで閉じて獲物を挟むというのである。さらに、狩りをするのに毒ガスや匂いの発する秘薬を用いたりする昆虫もいるのである。その③は「着飾る」である。ヒトから見て派手できらびやかな昆虫がいる。しかし、その色彩はヒトの視点（色覚）からみることである。昆虫自身にとってはどういう意味をもつかはほとんどわかっていない。派手に見えても自然の中では必ずしもそうでない場合もある。例えば、雌が明らかに地味で、雄が派手な色彩持つことがある。「産卵に専念する雌は捕食者から身を護るために目立たないようにしている」「雌によって派手な色彩の雄が選ばれてきた結果である」などの説があるがあくまでも推測である。証明は難しいとのこと。その④は「まねる」である。昆虫のかなりのものは何らかの擬態（生物が別のものに姿・声・匂いを似せること）をしているという。例えば、別の自然物に姿を似せて捕食者の目をくらますことをやる。身近な例はバッタやキリギリスは植物の葉に姿を似せるし、ナナフシ目の仲間やシャクトリムシは木の枝そっくりに姿を似せる。その擬態は昆虫自身の意思によるものでなく、突然変異と自然選択の膨大な積み重ねの結果だということである。また、無毒な昆虫が有毒な昆虫に姿を似せる擬態もある。もちろん捕食されるのを避けるためである。有毒性を黒色と黄色あるいは赤色の縞模様で示すのが定番であるとのことだ。その⑤は「旅をする」だ。前にも書いたことがあるが、チョウのアサギマダラは秋になると日本本土から南西諸島や台湾へ移動する。さらに初夏から夏にかけて逆に北上する。この数千キロにわたって移動するのは何故か、その意味はよくわかっていないとのこと。また、イネの大害虫であるウンカ類は毎年ジェット気流に乗ってベトナムや中国から日本に飛来する。ウミアメンボのように遠洋性で大海原の海面を生活の場としている例もある。その⑥は「家に棲む」だ。実はヒトと同様昆虫にも家や服をもつものが少なくない。馴染み深いものではミノムシだが、枯れ枝や落ち葉でできた巣に棲む。この巣は住居であり服でもある。またチョウやガの幼虫には葉を綴って巣をつくり、昼間はそこに潜み、夜間に

は外に出て葉を食べたりするものもある。ハチの巣も身近にあるものだ。幼虫の入る「巣房」という小部屋の入り口は六角形で、規則的に並び、その中で育つ幼虫にとって住み心地のよい環境になっている。それともうひとつ、空調の効いた自然の建造物としてのシロアリの巣（蟻塚）がある。シロアリはアフリカやオーストラリアの昼は灼熱、夜は寒い乾燥地帯に生息している。その中で生み出された智恵というべきものか。全く脱帽である。

さて、次に紹介したいのは「社会生活を営む昆虫」のことである。著者が言うには「昆虫の中には社会生活を送るものがある。よく知られているのはミツバチやスズメバチで、その外アリやシロアリ、アブラムシ、アザミウマ目の昆虫にも社会性がある。そこには、人間社会の縮図をみることができる。」とのこと。「その縮図の中で、社会性として一番大切なのは“階級（カースト）”があるということだ」という。例えば、ご承知の通りミツバチやスズメバチの場合、卵を産む女王バチがいて、その下に働くことに専念し、産卵しない多数の働きバチがいて、共に生活しているという具合である。そして社会性を有する昆虫は、その高等な生活様式を反映してか地球上で大きく繁栄している傾向があるとのこと。例えば熱帯雨林では、すべてのアリの生物量だけで脊椎動物のそれを大きく凌駕するというのだ。また、社会性昆虫の特性は狩猟や採集を組織立って行う点にも発揮される。その代表格は南米・アフリカ・東南アジアに生息するグンタイアリの仲間だそうだ。普通のアリは一直線に行列を作って餌を採りに行くが、効率的な狩猟方法として、行列の先端を扇のように広げ、一種の絨毯攻撃を行うというのだ。獲物の逃げ場を失わせる方法ということだ。ヒトが戦争をする時、逃げ場を失った相手は無差別攻撃し殲滅させる方法と同じ。以上、昆虫の「すごさ」の一部を丸山氏の著書から紹介してきたが、余談めいたものと同じ著書から紹介したい。まずは「子育て」に関すること。動物の死体を専門に食べるシデムシの例である。ネズミなどの小動物の死体があると、成虫はその腐敗臭に惹かれて飛来し、雌雄協働で地面の下に埋める。動物の死体は実は栄養に富んだ餌源で、競争者が多い。地面に死体を埋めると今度はそれをきれいな球形の肉団子に加工する。そしてカビが生えないように管理する。シデムシはその団子の上に卵を産み、生まれた幼虫にそれをかじって口移しで給餌するというわけである。子育てする上で大変な努力ぶりが伺える例である。次は「糞」の話である。自然の中にある哺乳類の糞も一部の昆虫にとっては大事な食糧になる。タマオシコガネの例でみると、草食哺乳類の糞塊の匂いを遠くから嗅ぎ取り、そこに飛来して、球状の糞玉を作って遠くへ運ぶ。糞玉を転がすのは雄で、雄は糞玉の上で雌と出会い、それを共同で地下に埋め、そこに部屋を作る。地下に埋められた糞は表面をきれいに塗り固められ、洋梨型に成形されて、卵を産み付けられる。孵化した幼虫はその糞を食べてゆっくりと成長するというのだ。このような昆虫は「糞虫」とも称される。最後にシロアリのことだが、木造住宅にとっては要警戒の存在であるものの、熱帯では植物遺体の分解者のシロアリがいなかったら倒木や落ち葉でわずかな年月で埋まってしまい、同時に多くの植物が死滅してしまうだろうといわれる。それぞれ存在価値があるというものだ。今回はこれで終わりとする。いかがだったでしょうか。

< 冬至 >

21日は冬至です。
1年で最も昼の時間が短い日です。本格的に寒くなってきますね。
冬至かぼちゃを食べて、ユズ湯につかって、日々の疲れを癒して下さい。

.....

< 会社近況 >

12月に入りました。12枚あったカレンダーもとうとう最後の1枚になりました。歳と共に1年が短く感じられるのは気のせいでしょうか？
今年もたくさんの方々にお力をいただき、助けていただき、ここまでやって来れたと実感いたしております。
現在お世話になっている現場も、お客様が紹介して下さいったお蔭でご縁をいただくことが出来ました。
出会えたことに、心から感謝いたしております。

今年は年明け早々、若い社員の退社があって社員皆がっくりしましたが、8月には吉田くんが入社してくれました。
和次さんは膝の調子がよくなり、今ちょっとひと休みをしているところです。毎日手伝ってくれていた最年長の大工さんも歳には勝てず、やっぱりひと休み。色々なことがあった年でした。
少し早いですが、今年も大変お世話になりました。よい年をお迎え下さい。

年末年始休業のお知らせ

H28、12/30（金）～H29、1/6（金）まで
お休みさせていただきます。ご迷惑をおかけいたします。
尚、仕事始めは1/7（土）です。

.....

平成28年12月5日発行
有限会社 幸田建設
<発行責任者>幸田久美
〒969-1204
本宮市糠沢字八幡1-1
☎0243-44-3816

（後記）
今年もお世話になりました。
来月号はお正月中にお届けできる
ように、がんばります。

事務員k